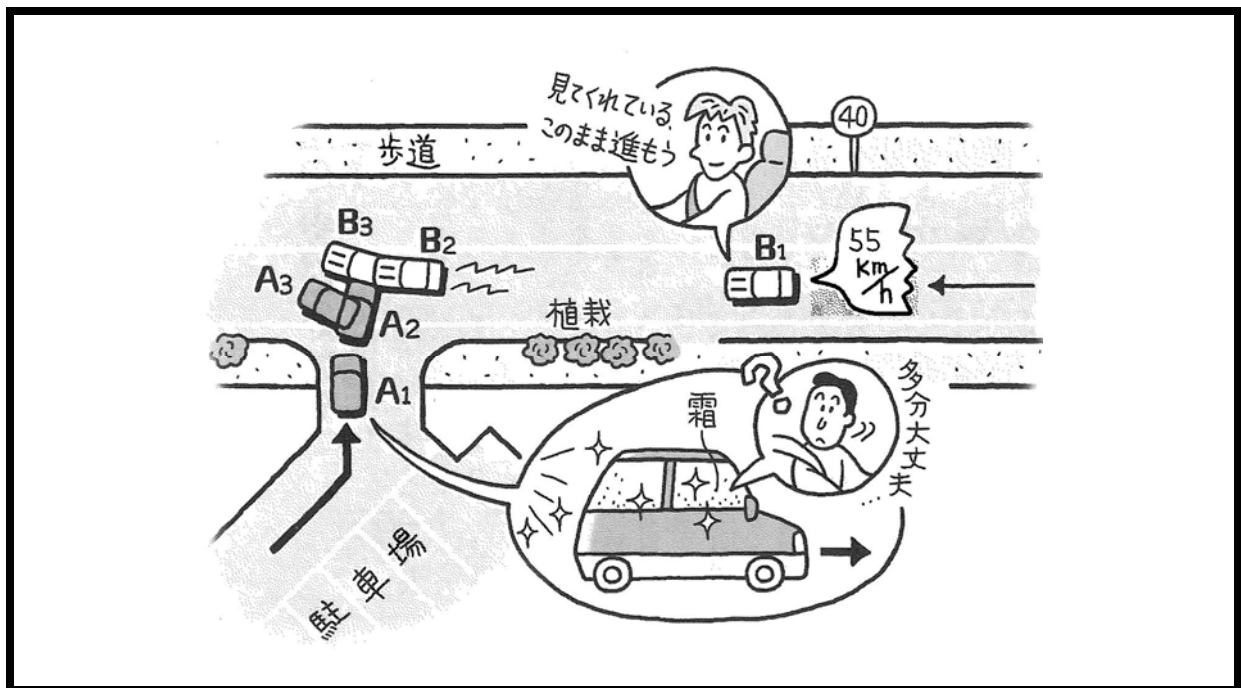


■事故の概況



事故類型：衝突

発生日時：寒い日の朝

当事者A：軽貨物車 30歳代 男性

当事者B：普通乗用車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは早く職場に行きたかったので、車に乗り込むとすぐに発進させました。Aは自宅のある敷地から左折して片側一車線の道路に入ろうと一旦停止しました。交差する道路の左右の安全を確認しようとしたのですが、窓ガラスには霜がついている上に朝日が低い角度から差し込んできてまぶしかったので、あまりよく確認ができませんでした。それでもAは大丈夫だろうと車を発進させたところ、右から走行してきたB車と衝突しました。

Bは通勤のため、規制速度40kmの道路を約15kmオーバーの速度で走行していました。この道路は見通しが良いので、一旦停止したAが自分を見ないはずはないという確信からそのまま走行を続けました。突然A車が道路に進入してきたので、あわてて急ブレーキをかけたが間に合わず衝突してしまいました。

■ 事故から学ぶ

野外に駐車した場合、気温が低いとフロントガラスや窓ガラスが結氷として曇りガラス状態になったり、雪で完全に覆われる場合があります。少しでも早く出発したいという気持ちもわかりますが、安全のために視界を確保することはとても大切なことです。霜を削り落として視界を確保するのが最善ですが、緊急避難的には寒くとも窓を開けて左右の確認をするという方法もありました。

また、Bが速度超過をしていたことも事故を避けられなかった要因のひとつです。車を運転しているときは「見えているだろう」という予測より「見えていないかもしれない」という考えをもち、車両を発見したら速度を落とすなどをして安全運転を心がけましょう。